

2月

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」の言葉通りに、あっという間に1月が終わり、2月も中旬を過ぎようとしています。いよいよ今年度の教育活動も本当に残り少なくなってきましたが、生徒たちには来年度に繋がるよう、充実した学校生活を送ってもらいたいと願っています。

さて、1月31日（水）には、県の指導主事の先生をはじめ、町教委からも5名の方をお迎えして、令和5年度後期学校訪問を実施しました。5限目に全クラスの公開授業を行った後、6限目には本校東和希教諭による社会科の研究授業を行いました。実は東教諭は今年度、県の学力向上コアティーチャー養成・活用事業に選任され、先進県である秋田県の取組について研修を受けてきています。秋田県では「探求型授業」を取り入れており、これは生徒が学習課題の見通しを持つことで、主体性を喚起する形の授業になっています。当日は、3年2組でこの「探求型授業」を行ったわけですが、生徒たちは自分なりの見通し、自分なりの意見を持って、積極的にグループ活動に参加できていました。単元の内容により、すべての時間で「探求型授業」を行うことは困難ですが、適切なタイミングで先生方には挑戦してもらい、生徒の主体性や思考力・判断力・表現力の向上につなげていっていただければと考えています。

研究協議では、先生方もタブレットを用いながら東教諭の授業に対する意見交換を活発に行いました。また、本校教務主任の三原史也教諭からは、県学習到達度調査の結果分析や学力向上の取組を報告しました。今回の県学習到達度調査では、国語科において記述問題の正答率の上昇が見られましたが、すべての教科で上昇したわけではないので、主体的・対話的で深い学びの授業づくりや読書活動の推進等を通して、読解力や記述力の向上を図りたいです。町教委の方々から頂いた建設的なご助言も参考とさせて頂きながら、より質の高い学習指導が展開できるよう努めていく所存です。

1年障がい者理解



3年百人一首



球技大会



社会科研究授業



研究協議

